

# 放送人の会

No. 46  
2010·5·31

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階

Tel&fax 03-3221-0019 E-mail info@hosojin.com

代表幹事 今野効 編集担当 伊藤雅浩(会報・サイト編集長)、鈴木典之、松尾羊一 事務局 佐藤真美子

続投にあたつて 会員の皆さんへ

代表幹事  
今野 勉



時折、何かの集まりで、会員の方にお会いすることがある。会のためにも出来なくて申し訳ない、と、大方の会員の方は仰有る。

私は、決してそんなことはない、  
何もないどころか、年会費を払い  
続けてしていることが、会そのものを存  
続させているのだから、大変な貢献  
をなさっているのですよ、と答えて  
いる。本当に心からそう思っている  
のである。

先頃、会員のありようについて、ご提案を頂いた。八十歳を超えた会員の年会費を減らしてもらえば、さらに会員であることを続けられる人がいるのではないか、というご提案である。

また、やむなく退会したが、放送人の会の会報を読むことで会とながついていたいので、

購読料を払って会報を送つてもらうことはできないか、というご提案も頂いた。

幹事会でその提案を受けて、新しい規則を作ることになり、その結果は会から報告として皆さまの許に届いているかとも思うが、改めて紹介しておきたい。

八十歳を超えた会員の年会費は五千円とする。大会後、お申し出があれば、購読料二千円で年四、五回発行の会報を送付する。

以上が新しい規則である。手続きその他の詳しいことは、これから幹事会で決めてお知らせすることにしたい。

放送人の会を維持しているのは、会員の志であることを今更の「」とく知らされた提案であった。

幹事の世代交代も会の活性化には必要であることは皆さんとの共通認識であつて、私も日頃から折に触れてお話ししてきたことであり、本年度から七人もの新しい幹事が生まれたことは喜ばしいことで、期待するところ大である。

ところが肝心の代表幹事が続投で三期目というのは、羊頭狗肉の態ではないか、と私自身思つていて、その弁を張ろうとしていたのだが、いかにも呆気なく、幹事会で続投を命ぜられてしまつた。

お前さん、見たところまだ頑丈そ  
うだから、四の五の言わずにやれ、といつた雰囲気で、私は四の五のど  
ころか、一も二も言えずに引き受け  
る羽目になつた。お許し頂きたい。  
続投にあたつて、一つだけお話し  
しておきたいことがある。それは、  
会員のありようについてである。

財源の基である会員の数は、会の発足以来二百人を少し超えるところで、安定的に維持されてきた。健康上、あるいはご家庭内の理由で、あるいは死亡という理由のために、退会となる会員の数とちょうど同じくらいの会員が入会してきたことを、この数字は示している。

会員を増やせば財源が増える、という当然の理屈もあるが、会員が、この人を、と推挙する人が入会して下さることがまず求められることで、その数が増えていくことは嬉しいことだが、財源確保の人ための人集め

八十歳を超えた会員の年会費は五千円とする。

大会後、お申し出があれば、購読料二千円で年四、五回発行の会報を送付する。

以上が新しい規則である。手続きその他の詳しいことは、これから幹事會で決めてお知らせすることにしたい。

放送人の会を維持しているのは会員の志であることを今更のごとく知らされた提案であった。

は本末転倒であろう。  
ともあれ、いま在籍している会員の支えがあつての会であることを会員の皆さんに理解して頂くとともに、誇りに思つて頂きたいとも思

# 放送人グランプリ2010(第9回)贈賞式



上段左から 久野光太、三好健太郎、辻本昌平、堀川とんこう、  
下段左から 芳崎洋子、石丸彰彦、堀川恵子、里見繁、今野勉、(敬称 略)

## グランプリ 堀川恵子様

「死刑囚 永山則夫・獄中28年間の対話」で、卓越した取材力と深いこころを示し、テレビ・ドキュメンタリーの力を遺憾なく發揮した、その努力と成果を讃えて。

**特別賞 ドラマ「J—N—R」制作スタッフ・キャストご一同様**  
奇想天外な設定を活かしながら、新鮮でしっかりとエンターテインメントに仕上げ、テレビドラマの明日への突破口を示した若い力の結集に敬意を表して。

### 特別賞 里見 繁様

「DNA鑑定の呪縛」など冤罪事件をテーマにすぐれたドキュメンタリーを作りつづけるとともに、指導者としてめざましい活躍をされた、その成果と業績を讃えて。

### 奨励賞 三好健太郎と「着信御礼! ケータイ大喜利」制作スタッフ ご一同様

「放送とインターネットの融合」をケータイで実験するバラエティ番組を作りつづけるとともに、週末深夜のテレビに定着させた、その類を見ない冒険心を讃えて。

### 奨励賞 辻本昌平様

ドキュメンタリー番組のディレクター／カメラマンとして活躍すると同時に、創作テレビドラマ大賞最優秀作「まいど238号」で、脚本家としての手腕を発揮された、その成果を讃えて。

### 奨励賞 芳崎洋子様

F Mシアター「風に刻む」で、阪神淡路大震災で被災した人間同士の対立と和解を、劇団活動で蓄えた力によりすぐれた脚本にしあげた、その努力と成果を讃えて。

### 特別功労賞 故・久野浩平様

半世紀にわたってすぐれたラジオドラマ・テレビドラマの制作を手がけ、「放送人の証言」収録という当会の事業にも尽力された、その放送人魂に敬意を表して。

「放送人グランプリ」選考過程



堀川とんこつ

とかということはない」と自負していました。一方、他の賞が目が届かない、隠れす。た名品に目をつけて賞を差し上げていま。す。今年の選考もこの二つを兼ね備えた。選考になりました。

この賞を創設する

木良彦さんの文章を今年読んで気がつい

たのですが、一表彰式では作品を推薦した  
会員がミニスパンチをすることがあります。

会員がミニバローをする」とあります。

が、今年は事前に推薦した人にスピーチ

をお願いする作業が出来なくて、実行に

至りませんでした。その代わりとして、

選考委員の方の中で番組を強く推薦した方の話の中でスープ・リチをお頬へ（ま

力は和の詩の口で不思議を喜んでいた。私は受賞作品に対抗する作品はなくした。

んであつたか、とか全体の流れをお話し

ます。

「グランプリ」

まずクランプリ作品 永山貢夫のトキ

はドキュメンタリーの優れた作品がかな

り放送され、議論もかなり行なわれまし

た。

「日本兵サカイタイゾーの眞実」写真  
の裏二葉レニ言葉　一は戦争二は戦皆乃

の裏に残した言葉」は戦争と知識階級の関係を追つたもので、物語性に富み、

の關係を述べたので、物語性に富んで面白いドキュメンタリーでした。サカイ

タイゾーという名は実は偽名だつたと晨

後に明かされるのはずるいと私は思いましたが、実によく出来たドキュメンタリードラマでした。

「日本海軍400時間の証言」は海軍軍令部O.Bが昭和55年から11年間海軍反省会という放談会の催しをやり、戦争中を回顧して喋る、その録音が400時間残っています。メンバーが生きているうちには秘密だ、死後なら公開していくという録音で、そのテープに残されたものを3本のドキュメンタリーにまとめた力作です。これを作ったのも右田千代さんという女性で、すでに本年度の女性製作者懇談会賞を受賞しておられます。この3本が最終的に残つて争い、その結果、堀川恵子さんに差し上げることになりました。

堀川さんは「チンチン電車と女学生」という番組で話題を作られたことがあります。その番組は本になり、吉永小百合さんがこの本を朗読しています。今回の「永山則夫獄中28年間の対話」は永山則夫・獄中結婚した奥さんへの取材、奥さんとの間に信頼関係を構築して、ここまで話を聞いて語らせたことに迫力を感じた番組でした。

読み書きも満足にできなくて無差別殺人をやったという荒涼たる精神の闇に閉ざされた永山という男が妻との文通、五会を通して次第に人間としてまつとうなるというか、人間性を回復して「無知の涙」など多くの著作を残し、そして本当に人間らしくなったところで処刑される、そんな残酷な物語です。最終的には死刑制度の是非を問い合わせてくる番組です。

これについても堀川さんは本をお書きになっています。「死刑の記、永山裁判」、「残したもの」という立派な、そして読み

**特別賞**の1本目はTBSのドラマ「仁JIN」です。

ドラマは低调と言われましたが、目を凝らせば昨年も面白いドラマがありました。WOWOWの「空飛ぶタイヤ」、MB阪で神戸の震災を扱った「その街の子ども」、NHK広島の「火の魚」、この「火の魚」は昨年数々の賞を獲つて行つたドラマです。その他「不毛地帯」、「白洲次郎」、「二本の木」など、それなりに稔りのあつた年だと思います。

選考委員が敢えて「仁JIN」を選んだ理由は、連続ドラマの内容が若者に媚びて薄くなり、若者にバカにされる、そんなパターンが多い中で、マンガが原作だとは言え、しっかりと脚本で、俳優たちの演技も子供だましでないいい演技をしていて、そんな評価で、今あげた数々のドラマを押しのけて受賞ということになりました。

特別賞の2本目は里見繁さんです。「DNA鑑定の呪縛」と「彼女は嘘をついたのか」の2作品が受賞対象ですが、里見さんについては私はよく知らないので選考委員の藤久さんにミニスピーチをお願いしました。どうぞ！

【藤久ミネ】私も里見さんについてそんなに詳しいわけではありません。お顔を見るのは今日が初めてです。ただ、私は長い間ギラクシー賞の選考に係わってきて、里見繁さんの作品には何度も出会っており、名前を見ると「これは絶対見るに価する」と信頼してきました。MBSが「

「DNA鑑定の呪縛」を放送した梓は「映像09」で、毎年「映像××」には裏切られたことがあります。



藤久ミネ

「DNA鑑定の呪縛」は菅谷さんの事件でDNA鑑定がマスコミに大きく扱われるようになる前に作られた番組です。

間違ったDNA鑑定で既に死刑に処された人もある、と非常にきちんととしたドキュメントを作つておられます。

「彼女は嘘をついたのか」は痴漢という犯罪がどうやって立件されるか難しい問題を扱つていますが、このドキュメンタリーも映画「それでもぼくはやつてない」より早く作られました。「夫は何故死んだのか」は大企業トヨタに挑戦した女性を追つた番組です。これらの番組を作るのに若い制作者を上手に育てながら、頼りになる後ろ楯としてしっかりと立つておられます。

先日、朝日新聞でのモザイクをかけるドキュメンタリーはどうなのかという論

壇で、里見さんのご意見は非常に説得力がありすばらしかった。私はすつと里見さんに憧れていて、今日お目にかかるておめでとうございます。

### △奨励賞▼

次は奨励賞です。まず、三好健太郎さんと「着信御礼！ケータイ大喜利」制作スタッフの皆さん。先ほど放送人の会総

会でこの番組を見たことがある人は?と挙手をして頂くと半数以上の方の手が挙がりました。これは若者向け番組のように作られていて、実は高齢者も見ていて、私もその一人です。じつはこの番組を強く推したのは私です。

毎回視聴者へは「お題」が出され、その答がケータイ電話で応募される。毎回30万~40万の応募があります。毎回番組の最後に「今日の応募数」が発表されていてその数字に驚きます。三好さん、一つ名作を披露していただけませんか?

【三好健太郎】お笑いでは、こんなやり方を「ムチャぶり」と言いますね。さつき面白いと言つていただいたものをご披露します。「セレブ小学校の卒業式」がお題。回答は「クラスはひとつになった、リーマンショック」。(拍手・笑い) ややうけ、というところですね。



三好健太郎

次の奨励賞は芳崎洋子さんです。NHK・FMシアターのラジオドラマ「風に刻む」です。これは選考委員の石井彰さんのご推薦でしたが、私もこれを聴きました。インターネットのホームページにアクセスすると全編が流れきました。最初は宣伝スポットかと思ったのですが、全部聞けました。こんなことがあるんですね。石井さんに話していただきます。

【石井彰】芳崎さん、おめでとうございります。

F MシアターはNHKに残っている二つだけのラジオドラマ枠のひとつです。

私はレギュラーの放送の中でこれを聞き、芸術祭の審査で聞きました。15年経ないこと、「大喜利広めたい」とか、それと若いゲストが何人か登場するのですがピント来ない喋りをする、そんなことは感じます。



石井 彰

ちにその葛藤と和解を見事にラジオドラマで描き上げた。非常に難しい作業だつたと思います。ラジオドラマならではの声のやり取りの中で、大震災の中でそれを心の傷を負い、右側の家は無傷であります。そのカメラマンが脚本家になりました。伺うと、もともと脚本家になりましたか? たかたのだですが、応募したらなんと創作テレビドラマ大賞最優秀作品になつた。これを快挙と言わずして:と言つたいい面白い事件ですが、ドラマは面白いのかどうか気になつて、NHKから借りて視聴しました。キャスティングは少々気に入りませんが、なかなか面白く出来ています。

その辻本さんが、今日は母とも慕う中崎さんと一緒にご出席です。

次回は芳崎洋子さんです。NHK・FMシアターのラジオドラマ「風に刻む」です。これは選考委員の石井彰さんのご推薦でしたが、私もこれを聴きました。インターネットのホームページにアクセスすると全編が流れました。最初は宣伝スポットかと思ったのですが、全部聞けました。こんなことがあるんですね。石井さんに話していただきます。

またNHKで再放送をする予定があるそうです。決定次第皆さんにお知らせして、是非聞いていただきたいと思います。素晴らしいドラマでした。

そこで私が話していただいたら、永山則夫の作品について話します。永山則夫の作品については鈴木典之さんに話していただく予定でした。順序がおかしくなりましたが、ここで話していただきます。

【鈴木典之】突然なので不確かな記憶で話します。永山則夫は、ご存知通り、最初は死刑、2審で情状酌量され無期懲役になりました。最終審では、どう人格が変わらうと犯した罪の責任は消えないと死刑になりました。まことに悲惨な人生を描

いているわけです。罪を犯した時点では、本人にしてみれば生きるためのぎりぎりの行動だったのです。「無知の涙」というかの著書が評判になりましたが、貧しくて教育も受けられない、社会から見捨てられた存在が苦心惨憺生きてきた。それが収監後、知識、人格とも見違えるような人間になりました。この落差が非常に大きいのですが、作品では獄中結婚をなさった奥さん・一美さんへのインタビューと、千何百通に及ぶ二人の間の往復書簡を丹念に検証することで描き出しています。



鈴木典之

うな人間になりました。この落差が非常に大きいのですが、作品では獄中結婚をなさった奥さん・一美さんへのインタビューと、千何百通に及ぶ二人の間の往復書簡を丹念に検証することで描き出しています。

凄いインタビューで、それが番組の説得力となり、高い質を生んでいます。  
敢えて言いますが、09年度に日本全国で放送されたドキュメンタリーの中で完成度と説得力で最高の作品でした。

最後に特別功労賞を久野浩平さんに贈ります。久野さんは皆さんご存知だと思いますが、福岡県のご出身で、ラジオ九州、のちにRKB毎日、それからテレビ朝日で数多くのドラマを作つて来られた方です。私どもがまだ若かった頃、「ひとり子問題」というのがありました。久野さんが作つた「ひとりっ子」というドラマが放送中止になつた、それも郵政、政府、右翼からの圧力で放送中止になつたことに民放の各労働組合が抗議したものです。その後「海より深き」、「幸福という名の不幸」、「生きて行くわたし」、「リツ子・その愛、その死」など数々の名作がありました。

永山へのレクイエムという感じをもたれるかもしれません、永山をとおして人間の存在と尊厳という根元的な問題を問いかけています。私は昨年いろんな作品を見ましたが、これ程描くべきことを十分に描いたという作品はなかつたと思ひます。調査報道ですが、客観性、検証性、説得性、このドキュメンタリーの3要素をこれだけの完成度で示した作品もなかつたと思います。



以上で選考過程のご報告とさせていただきます。

## 受賞者の言葉

堀川恵子



県光市母子殺害事件をめぐつてマスコミ、特にテレビ報道が「死刑コール」一色になつた時、言葉にはならない恐怖を感じ、重い腰をあげました。

本人にしてみれば生きるためのぎりぎりの行動だったのです。「無知の涙」というかの著書が評判になりましたが、貧しくて教育も受けられない、社会から見捨てられた存在が苦心惨憺生きてきた。そ

人の死刑囚の命、そして被害者も含めれば五つの命と正面から向き合う取材でした。今でも、この番組について短い言葉で振り返ることは出来ません。ただ作り手の立場から、テレビドキュメンタリーの魅力を改めて語るとすれば、やはりテレビ特有の共同作業にあると思います。取材対象者と真剣に対峙して預かった素材は、さらに編集マンという職人によつて削ぎ落とされ、核心部分が熟成されてゆきます。スタッフ一人ひとりの「思い」が映像に直接現れるわけではありませんが、冷静な判断と確かな技術、そして嘘偽りの無い熱情に支えられたとき、それは、ディレクターが期待していた成果を数十倍、数百倍にも膨ませます。ディレクターはその全ての行程に立ち会い同じ分野で厳しい環境の中で必死に頑張っている仲間たちへのエールにもなると同僚から励まされ、有難く頂戴しました。

「死刑囚永山則夫の膨大な遺品が手つかずのまま保管されている」。こんな話を聞いたのは、彼の処刑から八年がたった二〇〇五年のことでした。私は民放の報道記者時代からずっと、いつか「死刑」に向き合わなくてはならないと思いました。国家が人の命を奪うという話聞いた時は正直、手が出ませんでいました。國家が人の命を奪うという一點において、「死刑」は私の生涯のテーマでもある「ヒロシマ」と根が繋がつてゐるよう思えたからです。しかし遺品があの番組の鍵になつていました。それを引き出した堀川さんの取材者としての力を見落としてはならないと思います。

今、続編を作つております。続編といつても永山さんの事件ではありません。今回死刑囚の心のうちを掘り下げるとい

うことで永山さんの心のうちを掘り下げることをやりましたが、それだけでは抜け落ちているものがあります。死刑という究極の刑を前に生かすか殺すか判断する裁く側、検察を含めてのこちら側をとことんやらなければこの問題はなかなか見えてこない。今、そちらをやっています。5月30日、やはり「ETV特集」で放送します。永山則夫さんのとき私たちが抱えたもどかしさ、ジレンマをテレビドキュメンタリーの中でどこまでやれるか突き詰めているところです。是非ご覧頂いて、御批判をいただきたいと思います。

(続編についての部分は受賞式での挨拶から採録)



TBS編成制作局 石丸彰彦

### もし江戸に行けたら…

最後に「JIN～仁～」は制作者として、視聴者と「江戸」というものを共有でき、ときめきをもてた作品です。今後も自分自身が「ときめき」をもてるよう頑張っていきます。

### 免罪を追つて

里見 繁



全世代を通じて多くの方に、「もし、自分がタイムスリップしたら?」「もし、自分が坂本龍馬に会ったとしたら?」「もし、自分が歴史を変えてしまうとしたら?」

という「もし自分が～にという事」に胸をときめかせ、毎週見ていただけのではと思っています。

役の大沢たかおの目を通して、私達が見たことのない江戸に自分自身が行けたような感覚に陥る・・そんな作品であり、日々

本当にありがとうございます。この受賞のお電話を頂いたとき、私はすでに毎日放送を退社しておりまして、関西大学というマンモス大学に教職を得て4月から学生にドキュメンタリーの実習を教えています。ドキュメンタリーの仕事はひ

ケータイ大喜利とは…。「スタジオから大喜利のお題を発表。テレビの前の皆さんには思いついた“答え”をケータイで投稿し、笑いのセンスを競う」番組です。



三好 健太郎

このたびは栄えある賞をいただきありがとうございました

最後にはこれからも取り組んで行きます。毎年何本という脚力はありませんが、1年に1本、あるいは数年に1本、発表は映像かもしれないし、文章かもしれないが、続けて行きます。よろしくお願ひします。

(授賞式での挨拶)

び勇んで今日はここに参りました。  
私の場合、1本の番組に対する賞でなく、現役時代のいくつかの番組に対してということなので個々の番組について申上げることもないのですが、免罪についてはこれからも取り組んで行きます。

Bでもいいんです」というご返事で、喜び勇んで今日はここに参りました。  
私が場合、1本の番組に対する賞でなく、現役時代のいくつかの番組に対してといふことなので個々の番組について申上げることもないのですが、免罪についてはこれからも取り組んで行きます。

番組制作を通じていつも驚かされるのが、若い投稿者たちの「表現力」です。過去の放送から、優秀作品のごく一部を紹介します。

お題：高校相撲部の新入生勧誘。「ウソ～」チラシに何と書かれていた?

答え：まわしを締めた 彼女ができるお題：弱気戦隊ガンバレンジャー、今週のタイトルとは?  
答え：敵にも家庭がある…」の巻  
お題：セレブ小学校の卒業式。呼びかけで何と言つた?

答え：初めてクラスが一つになつた『リーマンショック』

さすがはケータイ世代！わずか10～20字の短い文章から、「画」が浮かびます”笑い“と”知性”が凝縮されていると感じます。

番組は4月から5年目に入りました。月3回に放送が増えたこともあります。”笑い“と”知性”が凝縮されていると感じます。

お笑い芸人が街を歩き、出会った人に大喜利のお題をむちやぶり！答えを考えてもらう”というものです。ケータイで投稿す

るという「デジタル」な手法に、街頭インタビューという「アナログ」をミックス。番組をひろめながら、一般の方々の“笑いのセンス”をとことん引き出していくつなります。

ケータイ大喜利はシステム、技術、美術、編成などNHK内外のパワーを結集しています。「前のめりに」取り組むスタッフばかり。これからも力を合わせて、がんばってまいります！！

演劇人・放送人 芳崎洋子



ケータイ大喜利はシステム、技術、美術、編成などNHK内外のパワーを結集しています。「前のめりに」取り組むスタッフばかり。これからも力を合わせて、がんばってまいります！！

れた。その事実が、尊く、そして圧倒的な力を持って私に迫ってきました。この場を体験させていただけたこと、それが本当にありがたく感じられました。

会の皆様は、異物のような私を温かく迎え入れてくださり、帰りには斎明寺さんと山路さんが、お茶にまで誘ってくださいました。美味しい抹茶白玉あんみつを御馳走になりながら、貴重なお話をうかがえたひとときは、とても心地よい時間でした。

今回、私はラジオドラマの脚本で奨励賞をいただいたのですが、音だけで、聞く人の頭の中に様々な絵を創り出せるラジオドラマに魅せられ、その脚本を書くことが夢の一つだった私にとっては、書き続ける上で大きな励みとなっています。

15年前の阪神大震災での自分の体験を元とした今回の作品は、言つてみれば私の知っている絵です。これからは、少しずつでも、自分が見たことのない絵を作品に映し出していきたいと思っています。その一步を踏み出すためのきっかけとなるこの賞を与えていただきましたことに、心から感謝しております。ありがとうございました。皆様の会の御発展をお祈りしております。

受賞によせて  
テレビ金沢 辻本昌平

先生方に育てていただきました。



若き日の夢 久野 光太



が母ちゃんを支えて、番組づくりを頑張つていきます。皆様、どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。

父の若い頃の夢は外交官になることだった。フランス文化に憧れ、小学生から大学生からならないが小さい頃から近くの教会の牧師のもとに通い仏語を学んだという。

実際の外交官はそれぞれの派遣先でどのような仕事を抱えているのかは知らないが、父には国費で遊んで暮らせるように見えたらしい。交遊関係者は各国から赴任してきた一流の知的な遊び人達。夜な夜なパーティーを行き来し、芝居を観て、美術館を巡り、美味しいものを食べ歩く。そういう文化度の高い貴族的な生活に一生興ずることに憧れていたのだ。

父に言わせると外交官にも松竹梅がつて、フランスやイギリスなどのような人気国には東大法学部卒でないとまわしてもらえないらしい。大学受験の頃に肺を患い東京行きを断念した父は同時に外交官になる夢も諦めた。

結局地元の九大法学部に進みやがて新聞記者を目指したが、体が弱いことが響きなかなか就職先が見つからない。暇を持て余し趣味の仏文科の授業を聽講してい母に出会ったということだ。

関西には、小さな劇団が数多くあります。その中の「糾あざない」という集団で、作・演出をしている私は、今まで自分は“演劇人”だと思い込んでいました。そのため、「放送人」と名のつく賞を頂戴することになった今回、場違いで申し訳ないような気持ちを抱えたまま、贈賞式に臨みました。私は、手作りな感じの和やかさの中で進みました。その雰囲気は、続く懇親会でさらに花開き、皆様のざつくばらんなお言葉を興味深く拝聴しました。かつては、ライバルとしてしのぎを削り合われたであろう各放送局の方々が、一つの会に集い、将来の放送界のために活動をされている。幼い頃から私が何気なく見た目聞いたりしてきた放送の裏側には、まさにこの方々がおられ、作り上げてこら

この度は、私のような者にご褒美をくださりありがとうございました。受賞式では、母ちゃんとまで壇上にあげていただいて嬉しかったです。近所のおばさん風ディレクターと、親子ほど歳の離れた気弱で無口なカメラマンの凸凹コンビは、

受賞によせて  
テレビ金沢 辻本昌平

この度は、私のような者にご褒美をくださりありがとうございました。受賞式では、母ちゃんとまで壇上にあげていただいて嬉しかったです。近所のおばさん風ディレクターと、親子ほど歳の離れた気弱で無口なカメラマンの凸凹コンビは、

その頃に母を授業から連れ出して一緒に鑑賞した沢山の映画や読み漁った膨大な読書などを通して身についた教養の積み重ねは、彼の文化財を鑑賞する能力を飛躍的に引き上げ、ひいては彼の将来の職業にそのまま役立つた。

そんなことをしているうちに毎日新聞の販売店を営む祖父が地元の放送局へのコネを見付けてきて、父はそこになんとか就職した。

父に言わせるとこの「演出家」という仕事はやりたくてやっている仕事ではない、他にやることがないから、しようがないでやっているのだそう。父の仕事の仲間達が魂を悪魔に捧げんばかりの勢いで全身全霊で演劇活動に命を懸ける姿に比べるとなんと罰当たりな発言である。

か。

「僕が外交官だつたらお前は帰国子女ではなくてやつているのだそうだ。父の仕事の仲間達が魂を悪魔に捧げんばかりの勢いで全身全霊で演劇活動に命を懸ける姿に比べるとなんと罰当たりな発言である。おらず、ということは私は存在しないのではないか。そんな基本的な矛盾には触れないあたりが父らしい発言といえる。

## 青山荘の愉快な半日

### 大山 勝美

「放送人の会」の総会とグランプリ表彰式の出席は2年ぶりである。昨年は、施術してから間もなくで、迷った末に出席を断念した。

それにしても、「グランプリ賞の表彰式」は中味が濃かつた。ハオクオリティで多彩な制作関係者の発言に、気持ちよく心をゆすられていた。

まず堀川とんこう氏の審査経過の説明が、内容をたっぷりに適切な表現で説得力があった。それぞれの受賞理由はもちらんのこと、審査で議論になつた争点、最後まで争つた他の受賞候補のことまで、丁寧に説明していた。

他の審査員の河野尚行、藤久ミネ、鈴木典之、石井彰らの「特にこの点を評価した」の発言も、個性的で味わい深かつた。

た。これに応える、受賞者側の挨拶も、また聞きこたえがあった。おごらず、自負を隠さず、そこにはみどりな「テレビ・ラジオ論」があつた。そしてみな「いい顔」をしていた。輝いていた。すぐれた仕事をする人間は魅力的で、成長していく。そんなパワーが伝わってきた。いや、エネルギッシュに成長する人間だから、人を動かすいい番組をつくるのか、受賞者の発言を聞きながら、そう思っていた。

日本のテレビマンは、すごい人材がまだまだ一杯いるのだ。勝手に気持ちを高ぶらせていた。

しかし、じつは肝心の受賞作の大半をみていないので、堀川恵子さんの「死刑囚永山則夫・獄中28年間の対話」、里見繁さんの「DNA鑑定の呪縛」、表彰式で心そられただけに視聴欲は高まっている。芳崎洋子さんの「風に刻む」もインターネットを開くと「原作者の意向で消去されています」の文字が流れている。

辻本昌平さんの「シナリオ」は読み、番組もみていたので、「やあ」「どうも」と、お祝いの言葉にも情と熱がこもる。

顔見知りの石丸彰彦氏とも親しい握手を交わすことができた。

そこで提案である。「グランプリ受賞者と作品をみて語る研究会」を開いたらどうであろうか。

「放送人の会」と「女性制作者懇談会」や日大芸術学部などの大学と共に催でもいいのではないか。2、3年を通して、テーマでまとめる手もありそうだ。

先々号の会報でも触れたけれども、久野浩平さんの日本初の「おぐら入りドラマ」、日本記者賞受賞「ひとりっ子」をみると、開催のプランもあきらめているわけではない。

折角のテレビの宝を、もっと社会にひろく触れてもらう機会を多く持ちたい。そんなほてつた思いを胸に、愉快な半日を過ごした青山荘を後にしたのである。

## 新幹事紹介



工藤博英氏



曾根英二氏



武本宏一氏



露木 茂氏



中山和記氏



前川英樹氏

(雨宮望氏は総会に欠席のため写真がありません)

沖野 瞭著『音屋の青春 ミキサーが語るラジオドラマ黄金時代』  
(暮しの手帖社 2000円)  
ラジオドラマをミキサーの視点から  
説き起こし、岩崎英雄、太田時雄、箱崎敏行の3人のNHKミキサーの足跡  
をオーラル・ヒストリーとしてまとめ、結果的にユニークなラジオドラマ史に仕上がっている労作である。

(M)

新刊紹介

# 放送人グランプリ NO10・懇親会

以下は放送人グランプリ表彰式の後の懇親会のスナップとスピーチの抜粋。司会進行は鈴木典之さん。以下は鈴木さんの指名で登壇なさった方々です。



辻本昌平さん

永野敏一さん

今日は長い間カメラマンとして二人三脚で仕事をしてきた辻本昌平さんが受賞するので母親気取りで一緒に来ました。(笑い) 辻本さんは初志貫徹で創作テレビドラマ大賞受賞、先日受賞作がNHKで放送された逸材です。

よく、回りの人に賞のことを言われますが、賞にこだわるのは居場所を作るためなのです。とにかく番組を作る場が欲しい。そのためには何か成果がないと続けていけない。一作一作真剣勝負で、何か結果が出ると次につなげて行ける。テレビ金沢に移つてもその状況は全く変わりません。一作一作頑張って居場所を作らうと思います。よろしくお願ひします。

曾根英二 今野さんから、「暇になつただろうから、手伝え」と言われて、嬉しくて、すっ飛んで来ました。3月31日に卒業したのですが、その前1週間前TBSの「報道特集」枠で「中坊公平にんにくの日々」というのを編集していました。本気になつて夜中まで仕事をして、ああ楽しかつたなあ、と思つて岡山に帰りました。今は大阪の大学で教えていますが、今週はゼミの学生を連れて大阪の商店街の取材を始めました。学生がデジカメで撮影し、逆スイッチでせつかくのいい話がとれなかつたりしますが、楽しそうにやっています。この中から次の時代のマスコミに入つてくる人がいると思いますし、阪大や京大に負けるなど励ましています。まだ現場で仕事をしたい気持ちがあります。

ありますので、大学の授業は週3日に押さえています。仕事、よろしくお願ひします。

鈴木嘉一（読売新聞・編集委員） この会には半分取材、半分知り合いに会いに来る気分で来ています。今年は堀川さんの選考経過の説明が実際に懇切丁寧でした。

芳崎洋子 放送人という冠は私には凄く大きい感じがします。テレビには小さいときから憧れていて、そこにこれから関わつて行けたらと思います。よろしくお願いします。

藤久ミネ 私は放送人の会のこのグランプリの授賞式が大変好きなのです。手作りで、今野さんや大山さんがマイクを持つて走つてくださつたり、制作者の方たちがこの会にあわせてホンネの話をしてくれます。今、ギャラクシー賞の仕事もしていますが、あちらはホテルが会場で何がものものしい。受賞者の方たちの言葉もナマで胸に届くことがない。こんなことを言うとギャラクシー賞の関係の方に怒られます。こちらの会は皆さん方の気持ちや手触りがじかに伝わってきて、ほんとうにいい会だと思います。

今日も楽しんでいます。

中山和記 私は長く共同テレビでドラマを手がけてきましたが、昨年からバンエイトという会社に入りまして、報道・情報系の番組をやることになりました。今野勉さんはその昔「天皇の世紀」という番組で一緒にさせていただき、伊丹十三さんとお二人に番組の哲学的な考え方を教わりました。今回縁あって放送人の会の幹事を務めることになりましたが、いろんな方に教わる機会ができたことを非常に喜んでおります。



山路家子さん 斎明寺以政子さん 北林靖彦（毎日）さん 山田尚さん

藤久ミネさん



山路家子さん

萩野靖乃さん

河野尚行さん

渡辺紘史さん

芳崎洋子さん

**今野勉** いつもは受賞者の話はもっと長いのです。いつも受賞者の方には「かまわず喋りたいだけ喋つてください」とお願いしていますが、今日は言うのを忘れました。今年は短かつたと思います。昨年は授賞式での喋りも長かったし、この懇親会での喋りも長かったです。鈴木さんと思いは同じです。

**北林靖彦** (毎日新聞) 学芸部の放送デスクをしています。普段はひとの原稿を読む煩わしい仕事で、外の天気もわからずストレスがたまるばかりですが、今日はスケジュールが空いて、楽しい授賞式に出席でき、嬉しく思います。中崎さんは電話で何回か話したことはあるのですが、お目にかかるのは初めてで、意表外のところがあつて会えてよかったです。毎日新聞では松尾さんと大山さんに原稿を書いていただいています。

私も「サカイタイイー...」と「海軍...」と「永山則夫」にそれぞれ意見はあります。が、説明に満足しました。先週、固有名詞は申しませんが、熱海にお住まいの女流脚本家 (笑) の名を冠した賞の会に出席しました。大賞はなかなかなくて、これまであつた大賞はその脚本家の方が関わっていたので、選考過程には疑問を感じていたのですが、選考過程の報告は「1月〇日にノミネート作品をピックアップしました。3月に委員会を開いて決めました」それだけです。その会はそんな会ですからそれでいいとして、それに比べてこちらは実に明快です。堀川さんの説明に応援スピーチも加わって「成る程！」という感じでした。

受賞者の中には前に電話でコメントをいただいて声を聞いたことがある方が何人かいらっしゃいましたので、お会いするのを楽しみに参りました。

**加藤辻** 私はNHKしか見ないので、今年の春から全くつまらなくなつた。第1に幼稚化している。第2に民放の真似ばかりしている。タレントをやたらにスタジオに集めればいいと思つていてらしい。年寄りの練習としてこれだけ言つておきます。

**松尾羊一** 異議アリ！ (笑) NHK大絶賛を書きました。NHKは「あさイチ」の司会、秦万里子の即興歌、などなかなかです。ただスタジオ・パークの新しい司会者は前任の二人に及ばない。「Biz Sport・N」あれは明治大学の教授の坊主頭・野田稔をもつと出すといい。今年の春のNHK編成は総論賛成、各論ちよつ

僕自身もその原稿を読んで勉強している日々です。放送デスクは3年目になりましたが、これからもこんな機会を持ちたいと思います。よろしくお願ひします。



懇親会 好評の青山荘 料理の数々



松尾羊一さん



鈴木嘉一(読売)さん

中山和記さん

と、といったところで、NHKはよろしいんじゃないでしょうか。



前川英樹さん



長沼士朗さん



松尾さん

**長沼士朗** 松尾さんのご意見ですが、私はNHKはちょっととまずいんじゃないかと思います。「ゲゲゲの女房」の後に始まる「あさイチ」は民放を追い越すと開発した情報番組だと思いますが、全く民放と同じ作りになっています。この前の「生活ホットモーニング」の方がよかつたと思います。私の老妻が「あさイチ」を嫌い、40歳代の息子の嫁も嫌います。司会者の品の無さに耐えられないと言っています。

**前川英樹** 数年前、TBSの中で「われわれは何をやつてきたのか」といった社内講演をした時に「われわれの競争相手は日本テレビ、フジテレビなどではなくてNHKなのだ。民放はそのために生まれたのだ。昔TBSの社は『最大の放送局ではなく、最良の放送局たれ』というのがあった。その時の『最大』はNHKだ」と言いました。その意味では、どうやってNHKに勝つか、NHKじゃない放送局が日本にあることはとつても大事なことなのだ。放送人の会ではそんな議論をちゃんとしたい。インターネットでこれだけさまざまな情報が送られていいのだから、テレビもそのネット空間に入つて行かないとどうにもならなくなるときがやってくる。テレビ局と制作会社の関係も含めて、何を番組、コンテンツにして行くかに集中することがとつても大事だと思います。

桜井均

ぼくがここに来るのは放送を始

めた人たちがまだ生きている姿をこの目標です。そしてその人々は時間がたつぱりあってテレビをよく見ておられて、私がほとんど見ていない番組について非常に熱心な意見が聞ける。ここは情報収集の場です。見届けと情報収集、その辺からアーカイブという発想につながりました。

私がここにいるわけをいいます。各務さんにそそのかされて、何か喋ることになり、「私は貝になりたくない」という題で喋ることになりました。「私は貝になりたい」は私が小さいころ決定的な影響を受けた番組で、あのときの会では、皆さん「この若造が、『貝になりたくない』など不埒なことを言う」と物凄い目つきで睨んでいました。

その後、大山さんが謝礼をくれまして、領収書を書きますと「ついては、入会しませんか」と言われ、入会には謝礼どちらほど同じ額が必要で、放送人の会の領収書を頂き、私の手元には残りませんでした。(爆笑)

**齊明寺以玖子** そろそろ幹事は引退ですが、会員としてはまだまだ残ります。年

といふことはあちこちでいわれるようになります。世間では引っ込んでいい年らしいのですが、自分の意識としてはまだまだのつもりでおり、好奇心は衰えておりません。放送はいまはテレビが中心ですが、やはり基本は『声』です。私はラジオで育つて、いまも関わっていますが、テレビは耳でみています。声、言葉を大事にして欲しいと思います。



齊明寺以玖子さん



今野勉さん



佐久間(サンケイ)さん



# 放送人の会総会終わる

放送人の会2010年度総会は5月15日(土)午後2時から、NHK青山荘1

階へやきの間で行われ、新幹事と2009年度活動報告・会計報告、2010年度活動方針・予算案を承認しました。

2010～2011年度の幹事とそれぞれの担当は左記の通りです。

名譽会長 川口幹夫

幹事・特別顧問 大山勝美  
代表幹事 今野勉

幹事 石井彰、石橋冠、伊藤雅浩、

荻野慶人、加賀美幸子、北村充史、

金平茂紀、隈部紀生、小池勝次郎、

桜井均、鈴木典之、長沼士朗、西川章、

萩野靖乃、林健嗣、堀川とんこう、

松尾羊一、村上雅通、山路家子、

山田尚、渡辺紘史

—以下新任—

雨宮望、工藤英博、曾根英二、武本宏一、  
露木茂、中山和記、前川英樹

(☆印はプロジェクト、○印はチーフ)  
事業委員会 チーフ 荻野慶人

☆放送人の証言 ○荻野靖乃、隈部紀生、  
桜井均、工藤英博、武本宏一

☆名作の舞台裏 ○石橋冠、雨宮望、  
渡辺紘史

☆人気番組メモリー ○大山勝美、  
露木茂、加賀美幸子、山路家子  
☆ 放送人の世界 ○今野勉、前川英樹、  
中山和記

☆ ドキュメンタリー ○桜井均、  
小池勝次郎

☆ 放送人の世界 ○山田尚、林健嗣、長沼士朗、  
鈴木典之、(顧問・河野尚行)

☆ ミニ集会(主唱者提案で隨時)

☆ 広報委員会 チーフ 松尾羊一

☆ 会報 ○伊藤雅浩(編集長)、  
松尾羊一、鈴木典之

☆ ウェブサイト ○伊藤雅浩、  
佐藤真美子(事務局)

☆ ラジオプロジェクト ○石井彰、  
松尾羊一

総務委員会 チーフ 北村充史

☆ 事務局担当 ○北村充史、山田尚、  
武本宏一

☆ 放送人グランプリ ○堀川とんこう、  
北村充史

☆ 地域交流 ○村上雅通、林健嗣、  
曾根英二

## 2010年度(平成22年度)予算

<収入>	
前年度繰越金	8,434,797
会費収入(含む入会金)	2,000,000
放送番組センター共同事業	2,000,000
放送文化基金助成後半分	600,000
イベント関連収入	150,000
計	13,184,797

<支出>	
一般管理費	3,370,000
人件費	1,000,000
事務所費	400,000
通信交通費	350,000
会議費	350,000
印刷費	500,000
各種謝金	450,000
ウェブサイト管理費	200,000
事務用品費	70,000
雑費	50,000
事業費	5,500,000
名作の舞台裏・人気番組メモリー	1,400,000
放送人の世界・ドキュメンタリー	900,000
シンポジウム・囲む会	300,000
放送人の証言	1,000,000
日韓中TV制作者フォーラム	600,000
放送人グランプリ	700,000
ラジオ・プロジェクト	150,000
会員交流・句会	150,000
予備費	300,000
次年度繰越金	4,314,797

## 2009年度(平成21年度)会計報告

(2009年4月1日～2010年3月31日)

1、前年度繰越金	7,194,413
2、2009年収入	6,545,510
会費(含む入会金)	2,125,000
共催事業契約・各種助成金	4,250,000
イベント関連収入	148,000
寄付・利息その他	22,510
3、2009年度支出	5,305,126
一般管理費	2,659,973
事業費	2,645,153
4、2009年度収支(1+2)-3	8,434,797
5、預金・現金残高	8,434,797
普通預金(みずほ銀行赤坂支店)	3,216,868
郵便振替証書残高	5,216,560
現金	1,369
6、次年度繰越金	8,434,797

## 名作の舞台裏・第26回

清左衛門 残日録

第十話「夢」(NHK 93年放送)

日時・4月17日(土)午後1時半

場所・横浜情文ホール

出席 仲代達矢、かたせ梨乃(出演)、  
竹山洋(脚本) 菅野高至(NHK)

司会・堀川とんこう(会員)

主催・放送人の会、放送番組センター

「政変があった。貴公は頼る人を間違えなかつたが、わしは間違えた。明暗がそこで分かれたのだ」と呴いて男は盃を空けた。髭も月代も伸び放題でいかにも落魄の旧友(金井奥之助・佐藤慶)を痛ましげに凝視する三屋清左衛門(仲代達矢)。二人は三十年ぶりの再会だが清左衛門は側用人職を勤め上げ隠居部屋も賜つた悠々自適の身分。反して旧友は二十五石扶持のしがない小役人で終わつた。晩年のは差は薄暗い居酒屋に気まずい空気が流れる…。

第一話「昏ルルニ未ダ遠シ」のシーンだ

が、現代の会社組織に感情移入できる内面の時代劇としてサラリーマン層に熱い支持を受けた。今回は第十話「夢」(文化



地味な作品を取り上げた経緯について菅野「当時のNHKは緊縮財政で、しゃ寄せは制作現場にかかつた。派手な立ち回りも修羅場もない、世話をふうなテーマをいかに内面描写で描けるか、これは竹山さんにすぐるしかない」。

竹山「いや、苦しくて途中でぼうり出して逃げまくつた(笑)」。



第一回が放送され、藤沢さんからお手紙を頂きました。家宝にしています(笑)。清左衛門は今でもやりたいですね」。

かたせ「男と女の世界を行間で埋めて行く、女のわたしは絶えず待つている演技を考えていました。今はケータイの時代で待ちの静かな余韻の時間が亡んでいますけど、みさはそんな女でしたね」

会場はこのシリーズを愛した熟年世代が集まり、藤沢作品のさらなる映像化を望む声がしきりだつた。

(編集部)

堀川「時代はバブルで前途が見えないサラリーマン、わけても会社一途に頑張つた定年前後の世代には感情移入できるドラマだったし、藤沢文学を慌てず騒がずの『間』のドラマとして、嫌ならほかに回しなさい(笑)」堂々と映像化した傑作シリーズで、今みても全然古くない」。

仲代「黒澤作品で殺され役(笑)、時代劇の力動感の渦中にあって、今度は『静』のドラマで。しかし、清左衛門と同年代に近い、いわば等身大の役で、藤沢作品は魅力があります」。

仲代「黒澤作品で殺され役(笑)、時代劇の力動感の渦中にあって、今度は『静』のドラマで。しかし、清左衛門と同年代に近い、いわば等身大の役で、藤沢作品は魅力があります」。

◆ 続 放送界多頻語事典◆  
アバン 2時間ドラマに多い手法だが『ゲゲゲの女房』で朝ドラ初の採用。  
民放ワイドショーの出鼻を挫く作戦  
「いつの間にかはじまってるわ」と奥様たちは首をかしげるのだが。

自主トラ リストラの反対語。テレビの今後を見限り、IT関連や私大の文系の空講座をねらう新語。

4冠王 芸術祭ギャラクシー 民放連盟賞放送文化基金賞を独占すること。もれ聞くと放送人グランプリも入れ、5冠賞をと某制作業者。欲バリめ!

予定調和 問木の「わがいとこ野山の狩りに飽きしのち酒呑み家売り病みて死にしかな」は悲しき予定調和人生だが、「予定調和のホームドラマ」と指摘するのは「予調評論家」という。

啄木に到底及ばぬ安易さを嗤う。リアリティー「一声は月が啼いたか鶴」(嵐雪)はロマンティック過ぎる。川柳は「一晩で月が止まつて布袋腹」とアリアリティーで迫る。ロマンVシリアル。あなたはどうちをとりますか。

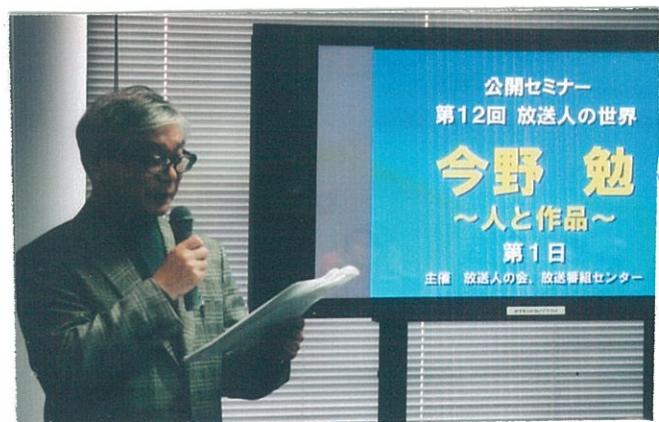
原点 業績悪化の新年会で社長が結びで使う。用例文「…この際我々は創成期の原点にかえる」。減点です!

マンネリズム 管理職用語。配転理由の一つ。用例文「アイツが数字をとれないのはマンネリだからだ。そろそろ外の空気を吸つてもらおうか」。また評論家多頻度語がマンネリ。おめえの批評こそ、大マンネリじゃねえか。

# 放送人の世界

## 第12回

勉の終わりなき饒舌な旅がはじまる。「代表作を持たない、ただし総てが代表作である」という今野勉の世界をのぞき見よう。3回にわたる会場は終始満員だった。



- (1) 3月20日  
『土曜と日曜の間』(64年 TBS)  
『七人の刑事』から「ふたりだけの銀座」  
(67年 TBS)  
『遠くへ行きたい』から「伊丹十三の日の出」  
撮影大作戦(72年日テレ)  
『天皇の世紀』から「パリの万国博覧会」  
(73年 朝日放送)

ゲスト 堀川とんこう



ここではテレビ現場が、映画・演劇な

- (2) 3月27日  
『太平洋戦争秘話 欧州から愛を「めでて』  
(75年 日本テレビ)  
『火の国の女・高群逸枝伝』(77年 TB S)  
『海は甦る』(77年 TBS)  
ゲスト 是枝裕和



- (3) 4月3日  
『岡田嘉子の失われた年』(94年 NHK B S2)  
NHKスペシャル『二つの王国・童謡詩人 金子みすゞの世界』(95年 NHK)  
ゲスト 松尾羊一



ンテソドな労資関係の中で、「辺境」を見据え、テレビに何が可能か、「お前はただの現在に過ぎない」テレビの自立を求め、「越境」することで第2幕がはじまる。

勉の終わりなき饒舌な旅がはじまる。「代表作を持たない、ただし総てが代表作である」という今野勉の世界をのぞき見よう。3回にわたる会場は終始満員だった。

今野勉もまた「現実の事件の意味を超えない限り、ぼくらのイメージは、現実に比して矮小なのだ」(中央公論 68・4月号)と「七刑」から「現実の事件」性の呪縛から「物語」を解き放った。動機なき殺人、いや動機そのものが不在の現代の不条理な状況をマルチに描けないか。今野

配られたパンフレット資料(2)の「作品歴概要」にはテレビ作品の全制作歴に脚本やイベントや舞台演出、著作歴も併せ記され、いわば今野ワールドのスケールを示している。

かつて高見順は「描写のうしろに寝ていられない」という有名な言葉で己の饒舌な文体を揶揄する者たちに応酬した。

今野勉もまた「現実の事件の意味を超えて高見順は「描写のうしろに寝ていられない」という有名な言葉で己の饒舌な文体を揶揄する者たちに応酬した。

今野勉もまた「現実の事件の意味を超えて高見順は「描写のうしろに寝ていられない」という有名な言葉で己の饒舌な文体を揶揄する者たちに応酬した。

どの先行メディアの下僕から脱してようやくスタジオ制作の送出システムが軌道に乗った時代について、いわゆる「ドラマのTBS」の正統と異端をめぐる葛藤に堀川は深くこだわる。映画の「組」ともニュアンスが違うCPやD、そしてADにまたがる組織によって量産される制作システムへの疑問がどのように顕在化しない限り、ぼくらのイメージは、現実に比して矮小なのだ。(中央公論 68・4月号)

今野勉がそれぞれテレビ論の集約の場で果たしたテレビマン・ユニオンの仕事を当事者として語る。この時期、ドラマとドキュメンタリーの融合と評価された作品を再見すると単に方法論上の試みを越え、歴史を現代に架橋する、過去を現代としてとらえる視座が生きていることが分かった。いち早くENGシステムを採用し、フィルムからVTRへ、ポスト・プロ(現イマジカ)など、新しいテレビたによる、例の「d'A」同人のころについて話は進む。ステーション・オリエ

ここではすでに流布され、断罪され、あるいは神話化された炭鉱「物語」を再発掘し、土俗にひそむ人間の真実の声を今野は炭鉱をぶるさとに持つ自分史に重ねあわせて呼び起こし、また亡命の彼方のみた光を終にみることがなかつた岡田嘉子の非情な足跡を、また夭折の詩人金子みすゞをめぐつては、骨肉と風土の関係からその透明な詩情に、宮沢賢治に同期する仏教的宇宙觀をあぶりだす。すぐれたドキュメンタリーは良質な推理小説の興奮をもつ。その今野勉特有の批評的ドキュメンタリーの本質に映像の優れて言語的性格を読み取るべきだと松尾は言う。的確な映像資料をふまえた「映像作家論」を示唆したシリーズだった。

(構成・編集部)

## 第二十回放送人句会

夏立ちぬというほど変わらぬ街を行く とんこう（慶）  
年月日うろ覚えでも夏は来る 晓蛙（慶、ま、き）  
踏み足りぬ麦の穂先や畠乱れ 馬笑（康、き、治）

◇平成二十二年五月十二日（水） ◇於：赤坂・麦屋

◇出席：伊藤視郎、上村暁蛙、荻野慶人、鶴橋康夫、  
豊田まつり、新村もとを、橋本きよし、堀川とんこう、  
松尾馬笑、森治美、山県ぽん太、西川阿舟  
◇兼題：立夏、麦、カチンコ

少女走る月に光るや麦畑

麦の秋土方姓の多き里

とんこう（◎視）  
阿舟（◎蛙、康、  
ま、き、ぼ）

一羽翔てば群みな翔ちて夏に入る  
麦の穂の間に見えし鬼の耳

とんこう（◎康、も  
きよし（◎ま、◎も、  
視）

花散れば麦茫々の時あそび  
夏の入りそろりと抜きし腕枕

馬笑（◎き、治）  
康夫（◎と、◎ぼ、  
蛙、も、舟）

夏立ちて女子大通り虹色に  
カチンコが朝顔揺らす明けの路次  
夏来る爪切る音の鈍きかな

馬笑（◎舟、蛙、康、  
ま）  
(選者欄) 視=視郎、蛙=暁蛙、慶=慶人、康=康夫、  
ぼん太（視、ま、治）  
ぽん太（視）

ぱづねんと夕雲一つ麦畑  
立夏なり薄き衣の君と居て  
父祖よりのくるり棒なり麦を打つ  
ポケットにカチンコ挿して穴子飯

と、ぼ  
きよし（蛙、慶、馬）  
馬笑（慶、舟）  
阿舟（視、ま、も、  
視郎（慶、ぼ、舟）

カチンコや老優しばらく懷手  
夏立てば小屋を出でざるブルドッグ  
少女らの脛艶やかに夏来る

もとを（蛙、馬）  
馬笑（慶、舟）  
季語を入れて

麦笛や八十歳の同窓会

"放送の緊急を語る会"

### 会に増田寛也氏を招いた理由

世話人 石井清司

増田氏は歴代の総務大臣のなかでも出色の人だ。自民憲法も古稀に近づき麦青し

君のゆく麦の波間のその先へ

夏来る黒潮の海まなかひに

松尾馬笑、森治美、山県ぽん太、西川阿舟

◇兼題：立夏、麦、カチンコ

海鳴の低く響ける立夏かな  
蔵の扉を開けて立夏の風通す  
海峡に轍はためけば夏来る  
カチンコの音に翅割るてんと虫  
天気予報はずれ続けて立夏かな  
カチンコに春愁の蝶振り返り  
薰風にカチンコ冴えて雪が舞う  
カチンコの素早き一打風光る  
カチンコに誘はれ出し夏の蝶  
麦刈の鋸鎌を習い切り  
軍事基地反対デモに夏来る  
水鏡青き我が身や夏来る  
バレリーナ身を撓めて夏立ちぬ  
果が出るのはずっと先になるが、今国会提出の電波・放送関連法案は重要な点の質疑がなされないまま上程された。

戦後GHQは放送に対しても政治権力の介入を許さない

権限を持つ独立行政委員会「電波監理委員会」を置いた。

その後吉田茂はこれを「電波監理審議会」名を変え、骨抜きにした。民主党の「日本版FCC」は「電波監理委員会」に近いイメージだが、これまで国会で否決される委員会制度を含む案が提出された。

今国会に提出される放送法改正案では総務大臣を監督する研究会で増田氏は問題点を精査して披露し、満室の聞

き手に理解者が増えたことを確信して去った。

### 次回放送人句会

◇7月14日（水）6時半頃

◇於：赤坂・麦屋 (投句 Fax03-3586-0056)

◇兼題：夏の夜（夏の夕も可）、冷奴、エキストラ（夏の季語を入れて）

研究会で増田氏は問題点を精査して披露し、満室の聞

き手に理解者が増えたことを確信して去った。

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 【い】石井彰 石井清司 石井ふく子 石高健次 石橋冠  
 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 一色伸夫 伊藤雅浩 井上良介 岩澤敏 【う】上田千秋 碓井広義 歌田勝彦 宇野昭  
 【え】江口辰之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太田敬雄 大西康司 大西文一郎 大原れいこ 大山勝美  
 大類啓 大脇明 岡弘道 岡崎栄 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暉 萩野慶人 小田久榮門 織田晃之祐  
 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 加藤滋紀 加藤静夫 加藤辺 金沢敏子 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫  
 鎌内啓子 上安平済子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 河邑厚徳 河村正一 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃  
 北村美憲 北村充史 木村栄文 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 隅部紀生 【こ】小池勝次郎 河野尚行 児玉清 児玉孝光  
 児玉久男 後藤和晃 小南武朗 近藤晋 今野勉 【さ】斎藤伸久 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江  
 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤秀山 佐藤利明 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 嶋田親一  
 清水満 下重暁子 城菊子 【す】菅野高至 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木克明 鈴木典之 鈴木道明 須磨章  
 【せ】せんぽんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 高戸晨一 高橋一郎 高橋啓 滝大作 武本宏一 田澤正稔 田中昭男  
 田中直人 田原英二 田原茂行 【ち】千葉勉 【つ】辻本昌平 露木茂 鶴橋康夫 【と】土居原作郎 堂本暁子 戸田佳太  
 外崎宏司 富永卓二 豊田由紀子 【な】中崎清栄 中澤忠正 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫  
 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村美美子 中山和記 難波秀哉 【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 二宮文彦  
 丹羽美之 【の】信井文夫 【は】萩野靖乃 橋本潔 林健嗣 林裕史 原由美子 原田庸之助 【ふ】深町幸男 藤井潔  
 藤井チズ子 藤田晋也 藤久ミネ 【ほ】星田良子 堀川とんこう 【ま】前川英樹 松井泰弘 松尾羊一 松平定知 松前洋一  
 松本明 松本修 松本国昭 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 三村景一 三村千鶴 宮川鑑一 三宅恭次 明神正  
 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】守分寿男 諸橋毅一 【や】八木康夫 矢島良彰 藤内広之 山県昭彦  
 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 大和定次 山根基世 【よ】横沢彪 横山英治 吉澤保 吉永春子 吉村直樹  
 吉村光夫 【わ】和田智允 渡辺鉄史

◎新会員紹介  
鎌内啓子さん

早大文学部卒 文化放送制作部 主に  
 教養番組・ワイド番組担当 「ダイヤル  
 人生相談」「落合恵子のちょっと待つ  
 MONDAY」。録音構成「わたし  
 はガンになつた」「滄海よ、眠れ」  
 「昭和が終わる日 沖縄で」など。著  
 作・編「女性ディレクターの現場」  
 (講談社)「放送ウーマンの70年」  
 現日本女性放送者懇談会 幹事。

「私も(67歳)で若くはないのですが、  
 現役の中堅を会員にして今、メディア  
 が抱えている問題を具体的に取り上げ  
 たらと思います」(談)

辻本昌平さん

放送作家。昨年度日本放送作家協会  
 (会長 市川森一)のシナリオ・コン  
 クールで応募715作品から最優秀作  
 に選ばれた。受賞作「まいど238号」  
 はNHKでドラマ化、放送された。

長い間、北陸放送のドキュメンタリ  
 ー制作のベテラン中崎清栄氏の作品力  
 メラマンとして組み、その間、ひそか  
 にドラマのシナリオを書き綴っていた  
 という。

お願い  
 本会は会員数を視聴率なみに数字の  
 高さのみを誇る団体ではありません  
 が寄る年波は超高齢者(80歳台)に会  
 費を半額とする善政提案が話題にな  
 る昨今、やはりイキのいい老年諸公  
 の入会を期待します。お心当たりの  
 人材を是非ともご紹介ください。

お知らせ

ザ・ベストテレビ

「ドキュメンタリー シンボジウム」

日時 6月19日(土) 13時～17時

会場 千代田放送会館ホール

主題『日本兵サカイタイゾーの真実』

(静岡放送)『家族記念日』(CBC)

出席 両番組制作者 (司会 音好宏)

主催 放送番組センター

編集後記

今回のグランプリ・イベントにはこ  
 の特集号に紹介されたように、読売、  
 毎日、サンケイなど、学芸記者の皆さ  
 んも出席し、取材、記事にして戴き  
 ました。放送のOBが『現場』を選ぶ  
 という個性的な贈賞の性格が認知され  
 たと喜んでおります。

さなきだにデジタル放送元年である  
 11年7月24日に向けてカウント・ダウ  
 ンがはじまります。贈賞式後の懇親会  
 でもNHKの思い切った春の新編成に  
 対して会場から賛否両論がわきおこり  
 ました。デジタル化放送時代を見据え  
 て踏み切った現れにちがいありません。

これを機会にわが「会報」の方向も  
 一新したいと、会報編集長制を設け、  
 伊藤雅浩さんのもとに会報新企画を打  
 ち出したいと考えております。こんな  
 企画は、こんなイベントは、と建設的  
 なご提案がありましたら是非とも編集  
 部までお知らせください。  
 よろしくご協力をお願いいたします。